



# エコ・へるす

〇〇●● 長野県環境保全研究所ニュース 平成20年(2008年)11月25日発行 ●●〇〇  
 安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415  
 飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929  
<http://www.pref.nagano.jp/xseikan/khozen> Email: [kanken@pref.nagano.jp](mailto:kanken@pref.nagano.jp)

## インフルエンザに注意しましょう

冬季に流行するウイルス性感染症の1つに『インフルエンザ』があります。インフルエンザは概ね11月から4月にかけて流行します。感染力が強く、38℃以上の急な発熱、頭痛、関節痛・筋肉痛などの全身症状が強いのが特徴で、喉の痛みや咳、鼻汁も見られます。場合によっては肺炎や脳炎等を起こし重症化する事もあるので注意が必要です。

インフルエンザウイルスはA型、B型、C型に分けられますが、流行するのはA型とB型です。A型はウイルス表面にある糖蛋白(ヘマグルチニン:HAおよびノイラミナーゼ:NA)の組み合わせで多くの亜型があり、現在はH1N1亜型(Aソ連型)とH3N2亜型(A香港型)が流行しています。A型は同じ亜型でも遺伝子の突然変異によってHAやNAの抗原性が少しずつ変異しながら流行を繰り返しています。また、突然まったく別の亜型がヒトに流行するようになることがあります。これが『新型インフルエンザ』で、誰も免疫を持たないため、世界的な大流行(パンデミック)が起きるだろうと予想されています。Aソ連型もA香港型もかつては新型インフルエンザでした。現在、東南アジア中心に発生している高病原性鳥インフルエンザが新型となる可能性が高いとされ、全国・世界中でその対策が急がれています。

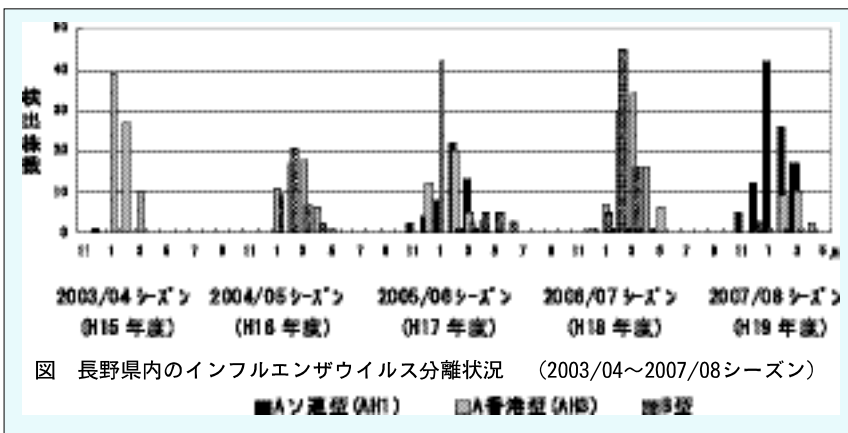
研究所では、感染症の動向を監視する事業の一環として、県内の医療機関で採取された患者検体からインフルエンザウイルスを分離し、流行している型を調べています。

昨シーズン(2007/08)はAソ連型が分離株全体の76.9%、とシーズンを通して最も多く分離され、次いでA香港型(19.2%)、B型(3.8%)でした。図に過去5シーズンの月・型別の分離状況を示しました。2007/08、2003/04はそれぞれAソ連型、A香港型と1つの型が中心の流行でしたが、2004/05、2006/07はA香港型とB型、2つの型が同時期に流行しました。また、2005/06のようにAソ連型とA香港型の流行の後半にB型の流行が見られたシーズンもありました。このような違いは、ヒトの免疫状況、ウイルス株の変異、気候など様々な要因によっておきるものと思われます。いずれにせよ、インフルエンザに罹らないよう気をつけたいものです。

インフルエンザに罹らないために、

- ・栄養と休養をとること
- ・流行前のワクチン接種
- ・人ごみを避けること
- ・手洗いやうがい
- ・マスクの着用と咳エチケット(咳などの際は口と鼻を押さえることなど)

以上を心がけましょう。また、インフルエンザに罹ってしまったと思った場合は早めに医療機関を受診し、安静と十分な休養をとることが大切です。



(粕尾しず子  
kanken-hoken  
@pref.nagano.jp)

目次	インフルエンザに注意しましょう…………… 1	自然ふれあい講座報告・研究所日記………… 3
	出前講座報告…………… 2	信州環境フェア2008報告・お知らせ………… 4

## 出前講座を行いました

### 長野県における地球温暖化の現状

日 時：平成20年6月10日(火) 16:00~17:30 対象者：駒ヶ根市浄化槽維持管理組合 25名

長野市で最近気温の上昇割合がおおきくなっていることや、冬に南岸低気圧が通過する頻度が増え県の中南部で大雪が多いことなど、地球温暖化が長野県でどのように現れているかについて具体的に説明しました。また、温暖化の世界的な状況についても説明しました。出席された方は、地元の動植物への影響や気象変化について特に関心を持たれていました。

(浜田 崇 kanken-junkan@pref.nagano.jp)

### 信州の里山、その魅力とその保全

日 時：平成20年6月28日(土) 13:00~17:00 対象者：御射里（みさと）の会 17名

里山のとらえ方、信州の里山の特徴と魅力、里山環境の保全に関する考え方と事例の紹介をしました。御射里の会が活動している里山はとても魅力的な場所であり、今後も無理せず楽しみながら活動が展開されるよう話し合いました。意見交換の中で、地球温暖化問題の本質は、人間の活動が地球の気候に影響を及ぼすほど巨大化してきた点にあり、今日の里山の問題とも関わりが深いことをお話しました。

(富樫 均 kanken-shizen@pref.nagano.jp)

### 低周波音について

日 時：平成20年8月31日(日) 14:00~16:00 対象者：根子岳風力発電を考える連絡協議会 約30名

低周波音とは何か、その影響の見分け方、低周波音測定による判定・評価、被害苦情の実例、低周波音対策等について説明しました。参加者からは大型風力発電により発生する低周波音、騒音などについての質問が出されました。質問された内容について9月に学会の発表会等で情報の収集をしました。

(内田英夫 kanken-hozen@pref.nagano.jp)

### 食品添加物、遺伝子組換え食品、健康食品、食物アレルギーとその検査

日 時：平成20年7月11日(金) 10:30~12:00 対象者：長野県児童養護施設連盟給食部会 10名

日 時：平成20年9月6日(土) 13:30~15:20 対象者：豊科各種団体等連絡協議会 40名

食品のリスク（食中毒、遺伝子組換え食品、食品添加物、残留農薬）とその対策（規制、検査、監視等）についてお話ししました。食の安全に対する関心が高く、熱心に聴講されていました。残留農薬をはじめとする有害物質の混入や食中毒に関する質問の数も多く、時間の都合で打ち切らざるをえない程でした。

(白石 崇 kanken-hoken@pref.nagano.jp)

## 自然ふれあい講座を行いました

### 草原性の植物観察会

9月7日(日) 10:00~15:00 参加者: 28名

全国的に草原が著しく減少する中、スキー場の草原としての価値が見直されはじめています。今回、飯綱町のリゾートスキー場内の草原と湿地を歩き、スキー場内に生育している植物や昆虫類を数多く確認することができました。これらの植物がなぜ出現したか、今後、どのように守っていったらよいか等について参加者と一緒に考えるきっかけができたように思います。講座後、参加者からは花のしくみ・形・大きさと花粉を運ぶ昆虫との関係がよく分かり感動した等の感想が寄せられました。また、飯綱山の成因・逆谷地湿原の地層の説明もあり、スキー場周辺の自然環境を総合的に知ることができたことも収穫だったように思います。

(永井茂富・須賀 丈 kanken-shizen@pref.nagano.jp)



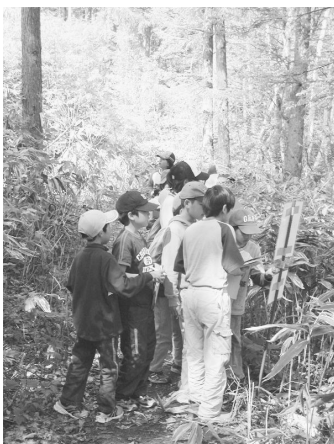
草原性の植物を観察

### 研究所日記

## 長野市の小学5年生が飯綱庁舎生態園で自然学習

長野市の小学5年生は、学校行事として毎年夏に市内の3箇所に分かれて高原学校を行っています。そのうち、飯綱高原に来る学校(25~30校程)の一部(数校)が、2~3時間ほどの時間を飯綱庁舎で過ごします。生態園内に設置してある自然観察路を歩きながら、12問の「いづなエコクイズ」に答え、また、観察路周辺の自然に触れながら、自然の学習をしていくのです。所定コースは約2km。子どもたち一人ひとりが回答用紙とペンを持ち、庁舎を出発し、観察路をぐるりとまわって戻ってきたところで、職員が答え合わせとクイズに関連した自然の解説をします。昨年は245人、今年は372人の子どもたちが、観察路を歩きました。

観察路とその周辺は、カラマツの植林地や薪炭林を放置してできたミズナラ林、ミズバショウが群



飯綱庁舎生態園で  
「この問題は…」

生する湿地や溪流など、さまざまな景観から成っています。今年も、観察路脇にクロスズメバチが巣をつくりましたので、十分に注意してもらいながら、それも観察できるようにしました。また、石積みの炭焼き窯など、かつての人の利用跡も残されています。

クイズの問題は、観察路のそのような自然の特徴に関連させてあり、「この沢にいる魚は次のどれでしょう?」「この木の高さはどのぐらいでしょうか?」「この穴はなんですか?」など、後で園内の様子を思い出せるようなものを多くしています。

子どもたちが高原学校の際に生態園で過ごす時間はごく短いのですが、森林内で過ごすことがほとんどなくなっている今の子どもたちにとって貴重な体験になるよう、生態園の活用方法については、これからも工夫を重ねたいと思います。

(陸 斉 kanken-junkan@pref.nagano.jp)



飯綱庁舎生態園で  
「答えは、えーと…」

## 報告

# 信州環境フェア2008に参加しました

8月23日(土)、24日(日)長野市ビックハット(若里多目的スポーツアリーナ)で開催された信州環境フェア2008に出展しました。当研究所では「地球温暖化を含めた環境問題」というテーマで当研究所の業務内容の紹介も含めて参加しました。地球温暖化の現状、地球温暖化と感染症、温室効果ガス等の展示と大人も子どもも参加できる体験コーナーを設けました。順番待ちをする人がいるほど大勢の皆様には様々な体験をしていただくことができました。

(企画情報課 kanken@pref.nagano.jp)



大勢の方々が体験



土による水の浄化の仕組み



二酸化炭素の濃度測定体験



ハクビシンの剥製

## お知らせ 環境保全研究所公開セミナーを開催します

研究所でおこなってきた調査研究の成果や業務の内容を、一般の方々にわかりやすくお知らせするとともに、各地の環境保全に関する情報を得るため、毎年場所を変えて「公開セミナー」を開催しています。本年度は、以下の日程で、塩尻市と長野市で1回ずつ開催します。日曜日の午後、ポスター展示や1題20分程のパワーポイント(スライドの映写)を使い研究成果を解説します。また、参加いただいた方々からご意見を伺い、今後の業務の参考にさせていただきます。

個別の演題等の詳細は、12月になってから、研究所のホームページやマスコミ等を通じてお知らせします。入場は無料で、事前の申し込みは不要です。参加ご希望の方は、当日、直接会場までお越しください。大勢の方々のご参加をお待ちしています。



(平成20年2月;須坂市)



(平成20年2月;上田市)  
昨年度の公開セミナーの様子

### 平成20年度テーマ 「変わりゆく信州の自然」

日時	平成21年2月8日(日) 12:00~16:00	平成21年2月15日(日) 13:10~16:30
場所	塩尻総合文化センター	長野市生涯学習センター (TOiGO WEST)
プログラム	12:00~ 開場/ポスター展示 13:00~ ごあいさつ・研究所の紹介 13:10~14:10 「地球温暖化と信州」 <14:10~14:20 休憩> 14:20~15:00 「広がる外来生物」 15:20~16:00 意見交換会	13:10~ 開場 13:30~ ごあいさつ・研究所の紹介 13:40~14:40 「里山のこれから」 <14:40~14:50 休憩> 14:50~15:50 「希少野生動植物の保全」 15:50~16:30 意見交換会

※ 各会場の小テーマ名は予定です。今後、変更する場合がありますので、ご了承ください。

## 編集後記

- 26号をお届けします。今回の内容はいかがでしたでしょうか。
- 本誌は、研究所の活動や長野県の環境保全および保健衛生に関する情報をわかりやすく提供することが目的です。お気づきのことがありましたら、お気軽にご連絡ください。

(編集担当:企画総務部)

## 次号の予告

次号は1月に発行予定です。「特集」「トピックス」「研究所日記」等を掲載予定です。